

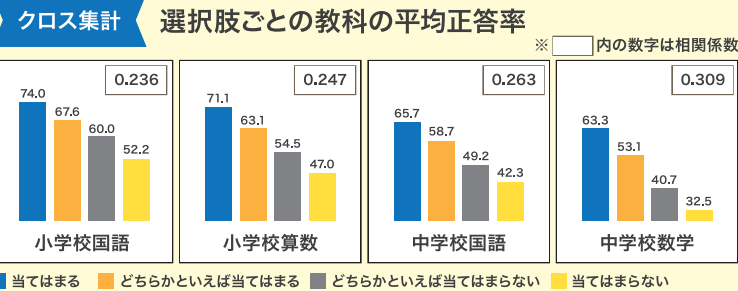
学力と「授業でのICTの活用頻度」と「主体的・対話的で深い学び」との関係について
令和6年度全国学力・学習状況調査から見てきたことをご紹介します。



◎課題の解決に向けて自分から取り組んだと考える児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られます。

児童生徒質問調査「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」と「正答率」との関係

小学5年生まで（中学1、2年生の時）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

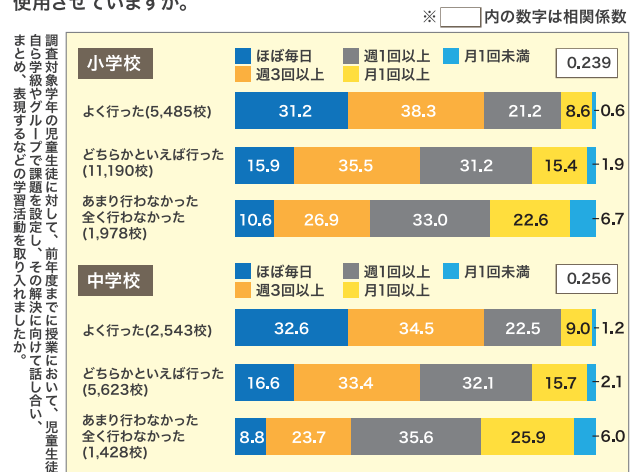


◎主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面でのICT機器の活用頻度が高い傾向が見られます。

クロス集計(学校質問調査)

課題の解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動
×
考えをまとめ、発表・表現する場面でのICTの活用頻度

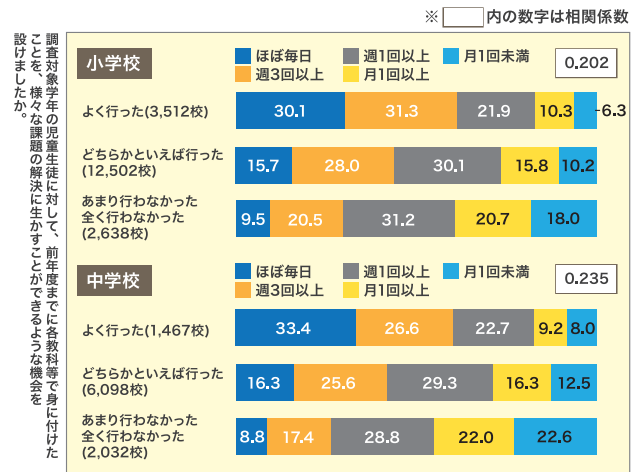
調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



クロス集計(学校質問調査)

各教科等で身に付けたことを課題の解決に生かす学習活動
×
児童生徒がやりとりする場面でのICTの活用頻度

調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



出典：国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査（概要）」より <https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24summary.pdf>

1人1台端末等を有効活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組みを進めることが大切です。

1人1台端末等を活用した授業実践事例をホームページで紹介しています！

優れた授業実践事例から授業づくりのヒントを得て、一層の授業改善を図ることも重要です。大阪府では、教員が授業研究をする際の参考にすることができるよう、下記のWEBサイトに1人1台端末や学校図書館等を活用した実践事例を、多数紹介しています。ぜひ、ご自身の授業づくりの参考にしてください。

大阪の児童生徒が1人1台端末を
活用した実践事例はこちらより



<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/jyouchou/index.html>

大阪の児童生徒が学校図書館を
活用した授業実践例はこちらより



<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/gakkoutosyokan/index.html>

本リーフレットはHPでも閲覧できます！



大阪府における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 1人1台端末を活用した学びの姿



このリーフレットのねらい

今、そしてこれからを生きる子どもたちは、身の回りや社会の中から自分で問題を発見し、その解決のために試行錯誤をくり返しなが、自分の納得する答えを出し、また新たな問題の発見・解決を行うといった、子どもたちが学び続けながら「自立した学習者」となることが必要です。

そのためには、国の「GIGAスクール構想の実現」で整備された1人1台端末も効果的に活用して

自分自身の興味や関心、自分のペースや学習進度、学習到達度に応じて、
一人で学んだり、他者と協働して学んだりしながら、
学習内容や学習方法を、自己調整・自己決定して、学習課題に取り組み、学びを深めていく

そんな学びが必要となります。

本リーフレットでは、GIGA第2期において「自立した学習者」の育成をめざすことができるよう、1人1台端末を活用した学びの姿を大阪府内の小中学校の実際の授業場面等をふまえて紹介しています。

学習指導要領で示されている各教科等で育成をめざす資質・能力や学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力等を確実に育成するためには、1人1台端末を効果的に活用した子どもたちの“学びの姿”を共有することが重要です。

学校等で端末の利活用を進めていく際に、教職員同士で端末を活用した学習の場面をイメージしたり共有したりするための資料として、ぜひご活用ください。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた1人1台端末を活用した学びの姿

大阪府では、誰一人取り残すことのない学びの実現をめざし、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、1人1台端末を活用した多様な学び方を取り入れた学習を進めています。そのために大切なことは、子どもたち一人ひとりの学習状況を把握し、教科等の目標達成に向けて学習内容や活動を考え、学習計画を立てること、また、学習過程において、子どもたちが一人で、あるいは他の人と協働しながら学習を進めるといった学び方を自分で決めていくことが大切です。

ここでは、子どもたちの多様な学びを取り入れた教室の一例を紹介しています。単にグループで学ぶことや端末を使うことだけが目的にならないよう、1人1台端末を何のためにどのように使うのかを明確にした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実をめざし、本リーフレットをご活用ください。



大阪府情報活用能力ステップシート

これらの学びの姿を通じて子どもたちに育む力の1つである「情報活用能力」の詳細はこちらの二次元コードから参照できます！

多様な学習形態で自分のペースで理解しながら学習を進める！



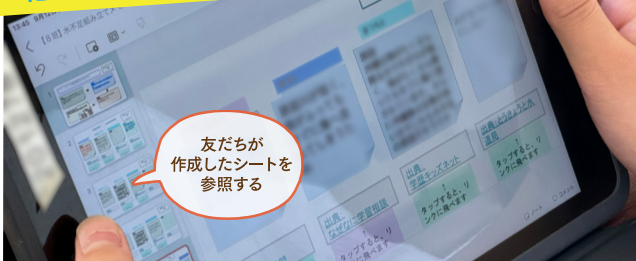
学習課題に対して、個人やペア、グループ等の形態で、また、端末やノート、動画や音声など、自分に合った学習方法を選んで自分のペースで学びを進めます。

自分で多様な媒体から情報を収集・整理・分析する！



教科書や本、インターネットなど、様々な媒体から情報を収集し、端末上でシンキングツール等を活用してまとめ、思考の過程や結果を可視化します。

他者参照する！



クラウド上では、リアルタイムで更新される友だちの意見や考えを見ることが出来ます。自分の考えをまとめる際に、クラウド上で友だちが作成しているシートなどを参照し、比較したりすることで、自分の意見や考えを深めたり、新しい気づきや発見をもつことにつながります。

自分の考えを端末を使いながら友だちに伝える！



自分が作った作品の特徴について端末上でまとめ、自分なりに分析したことを論理立ててグループのメンバーに分かりやすく伝えます。

多様な学び方を取り入れた教室等での学びの一例



この授業実践事例はこちら！



友だちと協働しながら学習を進める！



近頃の友だちと会話しながら端末を使って考えをまとめたり、チャット機能を使って友だちと意見交流しながら、教室やグループでの多様な考えを瞬時に共有して、自分なりに課題を解決します。

場所や距離を問わず、ともに学ぶ！



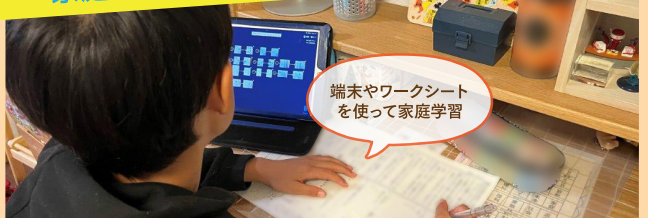
やむを得ず学校に登校できない子どもに授業をライブ配信し、グループワークの時間に、端末を使い、場所や空間を問わず、教室にいるクラスメイトと一緒に考えを話し合ったりします。

多様な人々とつながる！



他の学校・地域や海外との交流など、今まで実現が難しかった学習活動に1人1台の端末環境を生かします。場所にとらわれずに遠隔地の学校と同じ空間にいるような環境で協働的な学習を実施します。

家庭学習を通じて学びが充実する！



授業で学習したことをさらに深めたり、興味・関心を持った内容を追究するために、家庭でも1人1台端末を使って情報を調べたり、レポートやスライドにまとめたりします。また、家庭で動画等を視聴し、分かったことをまとめ、授業では、家庭学習でまとめたものを利用して、グループ等で意見交流するなど、家庭学習と授業を連動させることで、学びの充実を図ります。

教員による端末活用の一例



学習状況の把握等で活用！

授業者は端末上のソフトなどを活用することで全体の進捗状況と一人ひとりの学習状況を瞬時に把握し、支援が必要な子どもに重点的に個別の支援を実施します。

校務での活用！



端末とクラウド環境を活用し、授業研究会を実施します。さらに日々の学習や生活情報のデータ共有、学習データ等を活用した授業づくりを展開します。生成AIも適切に活用して、教材や練習問題のたたき台の作成など、業務の効率化に役立てています。